

血液がん患者会で情報交換

血液がん患者会「繋ぎの会」が加古川西市民病院（加古川市米田町平津）で発足した。白血病や悪性リンパ腫に代表され、診断から治療までの時間が短いのが特徴で、前日まで働いていた人が突然、入院するケースも少なくない。患者や家族が情報交換し、治療の相談だけでなく、社会復帰などの問題解決に向けて話し合っていく。

（小林隆宏）

加古川西市民病院に発足

同病院は「県指定がん診療連携拠点病院」の一つ。昨年4月に神戸大から同病院に着任し、内科部長を務める血液内科の岡村篤夫医師（45）が患者会の結成を呼び掛けた。4月に開かれた第1回会合では、約50人が病状や悩みな



看護師らも加わり社会復帰支援

どを語り合った。「介護保険を申請して助かった」「年が若くて入っていなかったが、保険には今後入れるのか」など医療費の支払いをめぐる話題が目立った。「就職の際に病歴を書いて不利に働かないか」と心配する人もいたという。

岡村医師は「治療開始当初は気が回らなくても、時間が過ぎ、収入や再就職への不安が出てくる人が多い」と指摘し、就労支援の必要性を訴える。また、地域完結型の医療につなげる目的で、患者会に訪問看護ステーションの看護師や薬剤師らが参加し、スムーズな連携を図るという。

会のコアメンバーの一人、広岡史郎さん（67）は福岡町南田原Ⅱは2011年に急性白血病と分かり、12年に骨髄移植した。第1回会合を終え、「みんな悩みを抱えている。いろんな話を聞くことで、病気の際にどうすればよいかの対応力が付く」と話す。

月に1度開催する予定で、ハローワークの関係者を招く計画もある。現在は病院スタッフもボランティアで運営に携わっているが、岡村医師は「将来的には患者さんが自主的に会を動かせるようになれば」と期待している。

患者会で話し合う内容について議論する関係者ら＝加古川市米田町平津

2015年5月23日(土) 付け 神戸新聞 朝刊 東播版 に掲載されました。

※当記事の掲載にあたっては、神戸新聞社の許可を得て掲載しています。無断の転載は、ご遠慮ください。